

困っている業者を救うのが民商 理事会で仲間増やしの決意固め合う

奈良民商ニュース



浜中会長が用意した水ようかんを食べながら、近況も語り合いました。

奈良民商は7月1日、7月度の理事会を開催し、浜中達也会長（製菓部、大安寺支部）、嶋守秀利副会長（印刷関係部、南支部）、南増義会計（家具販売部）ら8人が参加しました。
参加者たちは、6月、コロナ対策にとりくむ中、14人を会員の仲間に応えた成果を確認し、引き続き仲間を増やす決意を固めました。

発行 奈良民主商工会
奈良市大森西町13-16
電話0742-33-7266
FAX 0742-34-5826
HP naramsyo.jp

記帳会

【日時】
7月15日（水）
13:30
【持ち物】
領収書・帳簿
筆記用具・電卓



絵手紙教室

絵手紙教室は、新型コロナウイルスの感染予防と、みなさんの健康を守るためにしばらくお休みします。

はじめに浜中会長は「今日も東京で60人が感染するなど、コロナ禍は予断を許しません。国保の減免を広く知らせて仲間を増やしましょう」とあいさつ。霜鳥純一事務局長は「持続化給付金事業は電通などが20億円も中抜きし、大企業の食い物にされている。中小業者・国民のたかいがますます重要になっていく」と情勢報告。さらに6月には「持続化給付金の申請などで会員の紹介が広がり、史上最多の14人の入会者を迎えたことを報告しました。」
嶋守副会長は今後の活動について、引き続き、コロナ対策の諸施策の申請支援、紹介を募って仲間を増やすこと、今月は12日にチラシの配布を中心に統一行動にとりくむことなどを提起しました。また、定期総会を秋に延期したため、決算・予算案）についても提案し、全員で確認しました。
最後に浜中会長は「コロナで困っていない業者はいません。中小業者に親身に寄り添い、救うのが民商の役割です。大いに声掛けを広げ仲間を増やしましょう」と訴えました。

中小業者の声を 国会へ届けよう！

清水ただし
衆院議員との

コロナ対策懇談会

7/8 ○

9:30 民商5階



新型コロナウイルス感染拡大による奈良の中小業者の実情や要求を聴くため、日本共産党・清水ただし衆議院議員が県下9民商を訪ねます。私たちの生の声を国会に届ける絶好の機会です。多くのご参加をお待ちしています。

「相談したかったところ」 大安寺支部が会員訪問

大安寺支部は6月24日、会員訪問の統一行動にとりくみ、浜中達也支部長（製菓部）、中村誠子さん（電気工事部）ら3人が参加しました。

5人を訪問し、「持続化給付金を申請しませんか」と尋ねたところ、「ちょうど相談しようと思っていたところ」売上を計算したけれど、対象にならなかったなどの声が寄せられました。



持続化給付金のチラシを手取る大安寺支部の会員

お客さんの笑顔を見るのが喜び



いつも前向きに「お客さんの喜ぶ顔を見るために商売を続けたい」と話す高原さん

そばとうなぎのお店
紅屋
高原雄亮さん

名物は脂ののったうなぎと もちもち食感のそば

東大寺の近くの押上町で、妻の雪子さんとともに、そばとうなぎのお店「紅屋」(へにや)を営む高原雄亮さんを訪ねました。
お店の名物は、味が濃くて弾力のある、脂ののった国産うなぎ

ぎと研究を重ね完成させた「もちもち食感」のそば。メニューは、季節感を取り入れて工夫を凝らし、そば粉で作ったフランス北西部の郷土料理「ガレット」や、から揚げ、ギョーザなど盛りだくさんです。

インバウンド効果と 折鶴プレゼントで人気店に

自らの手で古民家を改装し2018年4月開業。インバウンド効果で、多くの外国人のお客さんが訪れ、さらにお客さんがSNSで拡散。高原さんが「笑顔で帰ってもらえるように」と、折鶴のプレゼントを始めたこともあり、たちまち人気店になりました。

23歳から飲食業に シェフの経験生かし開業

23歳の時、八軒町で父が営んでいた「ロストランミナミ」で厨房の手伝い始めたのが飲食業に入るきっかけでした。27歳の時には、長崎屋奈良店で中華料理店「紅鶴」をオープン。以来20年ほど営業しました。

2002年、長崎屋の閉店と同時に、いったん店を閉め、長野県や東京のホテルやゴルフ場

のレストランでシェフとして働きました。定年が近づき「自分の店を始めよう」と考え、66歳の時に現在の「紅屋」を開業しました。



東大寺近くの「古民家レストラン」です。



レトロモダンな落ち着いた雰囲気の内

コロナの影響で不安も

民商に相談し 助かった

民商には「紅鶴」時代、知り合いの紹介で入会。「紅屋」としてお店を再開して民商にも再入会しました。

お店が軌道に乗りはじめた矢先に、コロナの影響をまともに受け、客足が激減。「この先どうなるのか」と不安が募りました。「二時はどうなるかと思いましたが、相談できる民商があったよかったです。助けてもらった」と、高原さんは振り返ります。

少しずつ戻る客足

お客の喜ぶ顔見るため商売を

6月19日の県外移動制限の解除から、少しずつお客さんが戻ってきています」と話す高原さん。「これからも自分の体の続く限り、お客さんの喜ぶ顔を見るために商売を続けたい」と笑顔で話しています。



外国人のお客さんに喜ばれる折鶴